NAME

ci.conf – WAM に固有な知識データベース

SYNOPSIS

ci.conf

DESCRIPTION

ci.conf はWAMに固有な知識に関するデータベースであり, libwam(libci)が使用する.

ci.conf には, それぞれの WAM についてどの様な属性がありそれぞれの属性がどの様な値を持つかを記述する. 属性は(特別なものを除けば)改行を含まず, 空白文字以外ではじまる任意の文字列である.

一つの WAM についての記述は行頭が *handle:* である行から次の, 行頭が *handle:* である行の直前までである. **ci.conf** に書ける WAM の数は最大で NDSETS である. (この値を変更するにはソースを書き換えて, GETA 環境を再構築しなければならない.) WAM 定義の最初の行から *handle:* を取り除いた部分が WAM の正式な名前になり, それ以外の行はその WAM の属性と値を定義する. 空白のみからなる行および # で始まる行は無視される.

属性とその値は1行に1組を記述する. 行頭から見て初めての ':'(コロン) 文字の直前までが属性の名前, ':'(コロン) に続くちょうど1個のスペース文字を剥ぎ取った文字列がその属性の値となる. 空白文字を書かずに ':t: ' を書くことで, 属性の(値の)型を指定可能である (ここに, t は型指定文字). 現在使用できる型は(なにも指定しない時の型である) 文字列型と, パス型 (型指定文字は p) である(flags を除く. これについては後述). パス型は文字列型と同様に, ci_value(3) で取得できるが, 文字列型と事なる点は **ci.conf** に記述された値が '/' で始まらない時には, その前に属性 dataroot の値が付加されることである.

handle 以外の属性の出現順は自由で, また属性の名前は case insensitive である. 以下に予じめ予約された属性とその意味, 省略時の初期値を示す. なお, 予約された属性に型を指定しても黙って無視される. これらの値は ci_value(3) で文字列型として取得することができる(flags を除く).

flags は特殊な属性であり, その値は32ビット符号無し整数である. **ci.conf** 中での記述は符号無しの16進数で記述する. また, その整数としての値は ci_flags(3) で取得することができる.

属性名	意味	省略時初期値
handle	ハンドル	(省略不可)
short-name	ショートネーム	NULL
dataroot	データの置き場	$GETAROOT/data/$handle/
flags	フラグ, 16進数	0

dataroot がパス型の値に付加される際, ディレクトリ区切り文字である'/' は挿入されないため, 多くの場合, dataroot を **ci.conf** で指定する際に末尾に '/' を付けるべきである. また, dataroot に ${HANDLE} , ${GETAROOT} という文字列が現れるとそれらはそれぞれ, ハンドルと環境変数 GETAROOT の値で置換される. これらの綴りはいずれも case sensitive である.

上記以外の属性を書くとユーザ定義の属性として扱われる. ユーザ定義の属性は文字列型かパス名型であり, いずれの場合もその値を ci_value(3) で取得することができる.